

みずほCustomer Desk Report 2022/09/02号 (As of 2022/09/01)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	139.55
TKY 9:00AM	139.34	1.0037	139.78	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	140.23	1.0054	140.00	1.1594	0.6828
SYD-NY Low	139.00	0.9910	138.95	1.1617	0.6847
NY 5:00 PM	140.20	0.9946	139.42	1.1499	0.6771
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	31,656.42	▲ 145.99	日本2年債	▲ 0.0800%	0.0100%
NASDAQ	11,785.13	▲ 31.08	日本10年債	0.2400%	0.0200%
S&P	3,966.85	▲ 11.85	米国2年債	3.5158%	0.0218%
日経平均	27,661.47	▲ 430.06	米国5年債	3.4027%	0.0509%
TOPIX	1,935.49	▲ 27.67	米国10年債	3.2581%	0.0626%
ソコ日経先物	27,785.00	▲ 70.00	独10年債	1.5680%	0.0360%
ロンドンFT	7,148.50	▲ 135.65	英10年債	2.8790%	0.0830%
DAX	12,630.23	▲ 204.73	豪10年債	3.7180%	0.0930%
ハンセン指数	19,597.31	▲ 357.08	USDJPY 1M Vol	12.18%	0.58%
上海総合	3,184.98	▲ 17.16	USDJPY 3M Vol	11.88%	0.70%
NY金	1,709.30	▲ 16.90	USDJPY 6M Vol	11.44%	0.63%
WTI	86.61	▲ 2.94	USDJPY 1M 25RR	0.10%	Yen Put Over
CRB指数	284.62	▲ 5.79	EURJPY 3M Vol	12.34%	0.49%
ドルインデックス	109.69	0.99	EURJPY 6M Vol	12.25%	0.45%

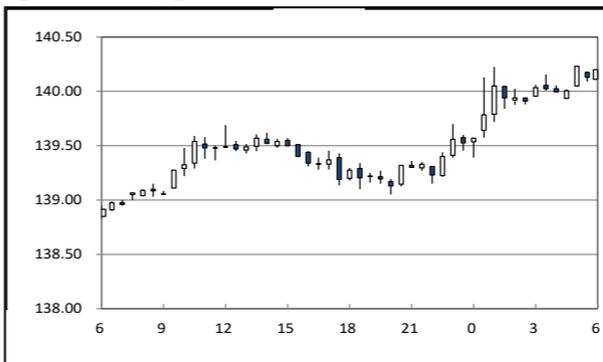
【昨日の指標等】

Date	Time	国	Event	結果	予想
9月1日	15:00	独	小売売上高(前月比)	7月 1.9%	-0.1%
	18:00	欧	失業率	7月 6.6%	6.6%
	21:30	米	新規失業保険申請件数	27-Aug 232k	248k
	23:00	米	建設支出(前月比)	7月 -0.4%	-0.2%
	23:00	米	ISM製造業景況指数	8月 52.8	51.9

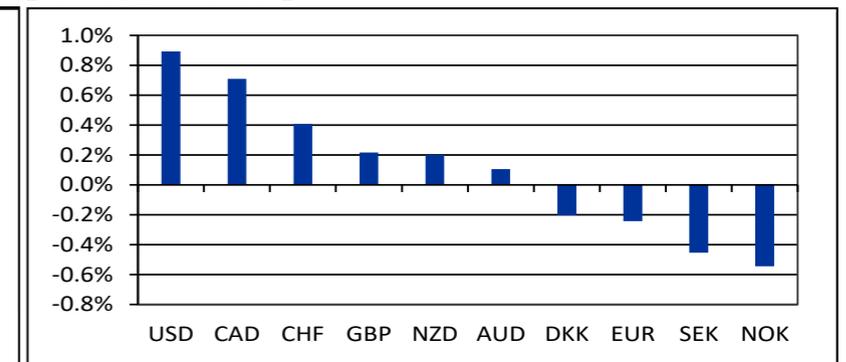
【本日の予定】

Date	Time	国	Event	予想	前回
9月2日	18:00	欧	PPI(前月比/前年比)	7月 3.7%/37.3%	1.1%/35.8%
	21:30	米	非農業部門雇用者数変化	8月 298k	528k
	21:30	米	失業率	8月 3.5%	3.5%
	21:30	米	平均時給(前月比/前年比)	8月 0.4%/5.3%	0.5%/5.2%
	23:00	米	製造業受注/同・除輸送(前月比)	7月 0.2%/0.4%	2.0%/1.4%
	23:00	米	耐久財受注/同・除輸送用機器(前月比)・確報	7月 0.0%/0.3%	0.0%/0.3%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	139.50-141.50	0.9900-1.0100	138.50-140.50

【マーケット・インプレッション】

昨日のドル円は上昇し、24年ぶりに140円台を突破した。139.34レベルで東京時間オープン後に円安を更新したことで、仲値にかけては実需のドル売り優勢の展開。一服後、日米金利差拡大を意識したドル買いが再度強まり、139.69まで安値を更新した。NY時間では、米8月ISM製造業景況指数が予想を上回ったことで急伸し、一時140.23まで上昇。新規失業者申請件数も予想に反して3週連続で減少しており、景気の底堅さが意識されている。本日のドル円も堅調な推移を予想する。市場は米8月雇用統計に注目している。雇用を中心に米景気の底堅さが意識されている中、本日発表の雇用統計も堅調な結果となれば足元のFEDのタカ派姿勢が強まるとみられ、ドル買いの流れは継続するだろう。一方、節目の140円を超えたことでドル売りも相応にあることは留意したい。

東京	東京時間ドル円は139.34レベルでオープン。前日の米金利上昇を受けたドル買いの流れが継続し、オープン序盤のドル円は堅調に推移。仲値近辺にドルが売られる場面があるも、その後はドル買いが強まり、一時約24年ぶりとなる139.69まで上昇した。買い一巡後は下落するもドル円は底堅く、139円前半を維持したまま139.34レベルで海外時間へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は139.34レベルでオープンし、目新しい材料に欠けるなか、動意に乏しい値動きとなり、139.23レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は139円付近でスタート。時間外の米金利上昇を受けてドル円は買いが止まらず、7月14日につけた高値(139.38)を難なく上抜け、139.69をつける。一巡後も139円前半ばで底堅く推移し、139.23レベルでNYオープン。朝方は米長期金利が3.2%台から3.25%台まで急伸する動きを眺めながら買いが強まり139.70をつける。その後、小幅反落するも10時発表の米8月ISM製造業景況指数が予想以上に強い内容だったことから米債安・ドル高の流れが強まり、140円を巡る攻防戦となり、上抜けるとストップロス巻き込みながら140.22まで上昇。買い一巡後、140円を割り込む場面もあったが、日米金利差が意識され続ける中、すぐに140円台に戻す。終盤にかけては約24年ぶりの水準となる140.23まで高値を更新し、140.20レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは1.00レベル半ばでスタート。天然ガス価格の下落や欧米金利差が縮小も見られたが、ユーロ圏の景気後退懸念が燃る中、上値重い推移が続き、1.0001まで下押し、1.0005レベルでNYオープン。朝方は米金利上昇や米経済指標に反応したドル買いを受けて再びパリティ割れとなり、0.9910まで下押し。午後はドル買いの流れが一巡したほか、ユーロ円の買い戻しを受けて0.9916レベル半ばまで反発後、0.9946レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 西・上遠野